

医療特集によせて

平素より、NEC製品のご利用を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本の医療を取り巻く環境は今激変しております。世界に類を見ないスピードで高齢化社会を迎え、患者数増加や医療の質向上への要求が高まる一方、政府の骨太の方針による医療費を含めた社会保障費の削減や、診療現場を支える医師・看護師の負担増などの課題に直面しています。2006年には「医療制度改革関連法」が成立、医療計画の見直しを通じた医療機関の機能分化・連携の推進、地域や診療科の医師不足問題への対応、特定健診・特定保健指導を始めとした予防医療の強化など、様々な改革が行われようとしています。このような状況の下、「患者様への質の高い効率的な医療サービス提供」と「経営の安定」をいかに両立するか、病院関係者の皆様の切実な悩みに少しでもお応えしたいと、NECは日々、医療ITの進化に取り組んでまいりました。

NECでは1966年（昭和41年）に日本で初めてレセプト（診療報酬請求書）のコンピュータ化を実現、1984年（昭和59年）には病院内の指示伝票を電子化して検査部や薬剤部などに伝達するオーダリングシステムを開発・導入しました。1999年には、厚生省（当時）「診療録等の電子媒体による保存について」の通達を受け、電子カルテシステム「MegaOak-NEMR」の販売を開始しました。ここでの導入経験を踏まえ、現場のお客様の声を徹底的に調査・分析して、次世代電子カルテシステム「MegaOakHR」を製品化、2006年に販売開始いたしました。現在、多数のお客様にご利用いただいております。

医療ITの中核となる電子カルテシステムは、導入期から成長期に入ったと言われております。このセカンドステージにおいて、NECでは、カルテ情報の記録、保存、閲覧はもちろん、

・電子クリニカルパスによる診療計画/実施プロセスの標準化支援

- ・医薬品/医療材料の在庫適正化によるコスト削減支援
- ・病院内で発生する様々な情報を蓄積/分析して、診断/臨床研究/経営改善に役立てるデータウェアハウス構築

などを進めています。

また、レセプトオンライン化が2011年度を目標に進められています。これにより、医療施設・調剤薬局・特定健診施設・審査支払機関・保険者を結ぶネットワークインフラが整備されます。そして、医療ITは、医療施設内の連携から、地域医療に携わる様々な施設が連携する「地域医療連携」、そして、保健、医療、福祉、介護、行政が、住民を中心に連携する「ヘルスケアネットワーク」へと広がっていきます。今回の「医療特集」では、医療・ヘルスケア分野における当社の取り組みの全体像と具体的なソリューションおよび将来ビジョンについて、詳しく紹介させていただきます。

NECは、長年にわたりお客様の良きパートナーとして、医療現場に従事される方々のご意見・ご要望を当社のコンセプトに反映させ、ソリューションを進化させてまいりました。弊社は引き続き、ITを通じて「医療の質向上」、「効率化」、「経営の改善」に全力で貢献していく所存です。さらに、NECグループが一丸となって、ヘルスケアビジネスを推進、日本の保健・医療・福祉に少しでも寄与していきたいと考えております。今後とも、皆様方の変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



執行役員兼公共・医療ソリューション事業本部長

東野 正